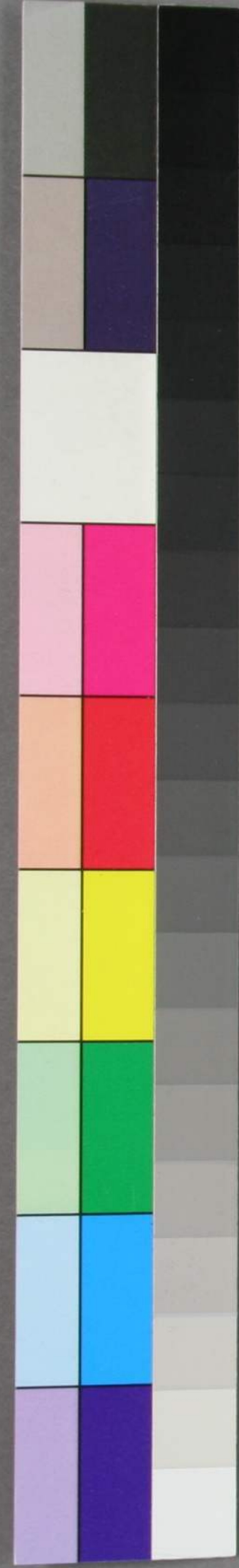


注合傳菱揮

豊後  
十五冊  
之内

多 9  
1338  
17



門多9  
號1338  
卷17

六種煙合式

香社歌の會々モム

凡香式の作法煙合よりめて之に於て然れども

香と銘と継事容易なりとて常々

とて事姑く先と古代の香合より之し

香教と六種より之の煙合の定式よりて常々

習ひ試みんども且和歌探題の一冊と益々

言録類あるものあり採歌一冊とて外

作法次第すしは換益す身は 今其用意  
次第と在揚すし

一罍帟

但香指し之て持多う寸法香指の大きき櫃  
帟の造り

一短籍

但三折し多う紙は用意ししきり  
うすくも歎書料はすし

一香包

但柱出正格香の包紙香格記す客方へ及  
法其外の記す及た其外は  
香格と短籍記す南香格と短籍  
三折し香包もた多う紙は用意  
すし

一香囊

但香元の人を香囊用すし

異質紙ハ 香袋入り 千疋の金布目の引敷紙と云て云き

とのまつみ懐中より取り 千疋香えりて云

有る向せて拵る

一ふくき

但香えの人懐中あり

件の品各用意してふくき

香の法の一々香包は一種の香袋

壹分四方又半分四方は

香指のりの中身は金布目の紙のきと  
出りたるは世々香指の如  
香指のりの中身は金布目の紙のきと  
出りたるは世々香指の如  
香指のりの中身は金布目の紙のきと  
出りたるは世々香指の如

一柱つゝ亭立へて云

香えりて云

一二ことと云

香袋は入るなり

此外器より取りぬきて 燈合の作法をすむるなり

位灰多めの草行真の灰火箸香箸の云

みくし人よふに云

先等は不伴の晴儀

の事 しくも常より有り 試る 略儀の 灰押 習常  
とも月い ちきみとも 月少 略儀 是 我

事とは 法の 微意 ありあかり しくこ

香は 歌の 多きと 少きと 香と 嗜むと 歌と 嗜む  
人又 歌を 終して 香を 終せり 人 止て せん けり  
香と 嗜む 人の 品 香の たの けり 歌を 終する 人  
い 祇 祇 の あり けり 若 一 座 の 中 香 と 嗜む 人  
香の ち 合 明 時 十 座 の 覺 悟 人 初 分 本 と

乞 乞 乞 炷 合 の 式 也 謎 へ 香 拈 合 多 けり 次 座 の  
人 又 終 じ けり 是 同 一 座 の 中 香 と 嗜む 人  
ハ 香 二 種 あり 月 意 あり 又 一 座 の 中 香 と  
終 せり 人 歌 出 せり 時 一 座 の 中 香 と 嗜む 人 籍  
代 儀 と 拈 合 香 拈 合 あり 人 の 分 本 と 同 じ 也  
こ ころ 詩 と 終 じ けり 人 茶 と 嗜む 人 一 座 あり  
所 詩 歌 あり 茶 の 香 ち けり 必 事  
せ けり 但 人 教 へ 各 夫 夫 限 茶

式のこゝに作法次第ハ大略如左

會席並仰并花等是合あり

夜ハ手燭用意あり

一香盆組并小火取火盆若料紙硯箱飾付法乃

一香元次の間より一礼火取火箸拵入事法の如し

此時筆右次の間より一礼料紙硯箱取座より着車

法の如し

一香元次の間より一礼火取火箸置并香盆大座より

着車法の如し

一柱空入香箸立銀葉入取出置并等法の如し

一香爐并火取火箸取出並付等法の如し

一灰手あしを香爐のふち拭い火合試假よしき並

等の事法の如し

此間筆者硯出料紙と折端他と書硯事

記録紙硯の蓋へ入並等の事法の如し

一香盆よりふき香爐と前より出し一礼等法の如し

但亭主香元の時と客のちり香元お助の時との差別  
有る

一引敷置付香包出—香囊置付等法の如

一銀葉と香爐と火合試香若と香盆と銀

入仕煙香炷事法の如

一盆と煙—客と送了包紙仕煙事法の如

一上客次座へと云尺—少次座へ盆と送了たて灰の

扱形有事法の如

一上座より順々廻して少事加法

但度毎に戴き我香斗ハ其儀に不及し

一亭主少て香爐下と並時上客香の扱形香浴尋

等の事法の如

但世時上客を盆して二返少廻しより一返に

此時筆者硯出記録紙出—香浴を記—香主

の名を記—硯出記録紙硯の蓋へ入置等の事

法乃如 こうまき筆者継へま  
香浴と考なり

一亭主銀葉と引敷へん香爐銀葉入香箸立と盆  
と組付末座の人より送る事法の如

但後順末座の人より次才より上座へ送る  
香と少の上座より本順より少あり

一末座の人と盆より付引敷と出香包と出香箸立  
と出銀葉入と出香爐と盆の真中へよせ香  
炷事法の如

一盆亭主へ送る包紙仕廻事法の如

一亭主上座へ一礼して少上座へ盆と送る其時  
尋挨拶等の事順の法

一盆香主へ戻す時香主と少して銀葉と引敷へん器具  
始の如く組付上座へ順廻して継事法の如

一上客の香添へ盆より具始の如く組付亭主へ戻す時

亭主席中へ余儀採題  
採題の香包と取出口紙下盆より盆へ  
席中往々木の下へ品置るあり  
盆と廻り上座へ出さる上客は座へ去りて一色  
と採る右の膝服より香箸立と出銀葉入と出



香爐と盆の真中へ、セ法の如く、炷試銀葉  
を引敷へん盆と道具始のく、組付次を返り  
包紙仕廻なり、煙のく、是探類定式あり  
略式の盆真主へ、時探類の香包と取出し  
切交へ右の膝服に、香箸立銀葉入り、香煙  
と盆の中へ、セ銀葉と盆一炷煙出さる、包紙ハ  
香裏に仕廻、残の香包ハ懐中より、む、一炷  
と、炷合の揚香と、真主短時の作法あり、此一炷

一、盆の類と定式擇て乱れて致す中、初致今迄の  
一、簡筆者、香浴不殘記、畢筆と収め、硯と、  
記録と、浴、硯の上へ置等、の筆法のく、  
一、盆真主へ、房の時、真主に、少て銀葉を、引敷へん香  
爐と、假金よ、し、銀葉入、炷立入、木香箸と、盆  
組付上客へ、出、筆法の如、  
但、香具形物と、取合物との、差別有、  
一、上客より、次礼有、て、銀葉と、仕廻、盆と、次へ、返、了、す、

浴の類と定、式擇て乱れて致す中、初致今迄の、  
是通類略式あり、信、の、  
一、盆真主へ、房の時、真主に、少て銀葉を、引敷へん香、  
爐と、假金よ、し、銀葉入、炷立入、木香箸と、盆、  
組付上客へ、出、筆法の如、  
但、香具形物と、取合物との、差別有、  
一、上客より、次礼有、て、銀葉と、仕廻、盆と、次へ、返、了、す、

一引敷香囊と仕廻懐中する事法のこゝ

但香元ハ正間ニ香爐出火取出火と除灰

ハ正間ニ香爐出火取出火と除灰

一盃亭主ハ正間ニ引敷法の下ニ銀葉仕廻引敷

香囊仕廻懐中する事法のこゝ

一炷立入銀葉入始の如し置香爐銀葉入炷立入香

箸立ハ次第ニ始の如し一盃ニ併付一礼等法の如

但組付長盃と四方盃との差別有り

一上客より香爐拜見の定有事法のこゝ

一亭主法のこゝ香爐と上客へ出奉り法

但一ツ香爐故魚と用事

一上客次礼有て拜見一次に返して香爐の浴可

有無蓋袋等の事尋不殘取見取て亭主へ

返す時右を取左の管へ居時惣礼有事法のこゝ

一亭主香爐と始のこゝ組付盃より持立始の如し

飾付奉り法の如

此時筆者記録と上座の並へ置て復る香元  
火取火箸持入へ持入料紙硯箱と始の如  
飭付事法の如し

一真主火取香爐火取箸勝年へ持入炭固と  
ゆけ持出胎の如し飾付本座より着立客惣礼記  
録拜見等一々如法 式畢

六種柱合筆者作法

- 一香元火取香爐持勝年へ入と筆者次の間より
- 一袴下へ出料紙硯箱元例の座より着
- 一香元灰手前との間と筆者硯の蓋を元打返して
- 硯の服へ至硯と前より出墨と摺筆と深て
- 硯と右の膝の向服定座より料紙の上よりある
- 水引と硯蓋へ元至料紙元あけ例の如し



（年号）同日記法あり

一 終りの香塔記（年号）同日記法ありと筆と硯は収め硯の墨を向  
はより居り硯と料紙のふり平し夫より記録  
二枚前二枚と出し室より出して硯の内の錐子を出し  
穴を明け水引を法として綴て三ツ打水引  
のふり上へふりして蓋をして硯の蓋をして記録  
と硯のふり蓋

一 香元香蓋と持立と筆者記録と持上座の  
前へ出してゆかしをもちては出して

一 香元火取と拵入と筆者料紙硯箱と飾付本  
座に着

一 上座より順に記録并見添て筆者硯箱のふり  
上へ蓋

是より亂中とを別しむこと常のそと終り  
別と短籍と香包と各とまて出さ

一 講筆者の短籍と蓋或は麻に載せ筆者香包と  
懐中し記録硯箱と終り例の座に着  
講師の香元  
の人使す

一講以<sup>華石</sup>記講早て短籍と華者よ返る華者記録  
中一ニ枚目の端作し空閑一炷探題俳歌記と出  
右待時の詩歌 記記早て香包といふも、香袋記  
記と申すなり  
出りし点を掛る終る年号月日を書初のと  
折置すとて例の如く硯仕廻記法を持上座の  
前へ坐してゆり硯を元の座より飾付本座よ  
着上座より順に拜見初め客記録と  
床の棚へ上りたり

一判詞跋文等々後日以後に書命  
一歌ハ各衆の下の一字を記すなりしり同字ありハ  
一人の上の字を記すなり

炷合式原本抜萃

一 炷合活の附く連歌附合の如く春秋悉く三種不  
五種すくはく二種すく不捨其の南本すく  
二種すく後すくも尚すくすをていすすも昔すく  
神釋の如くも昔すく人若くす附く二種す種  
すく一種すく不捨悉く大概二季すくも出さ  
後す出さす季と季の間の親す種す者す

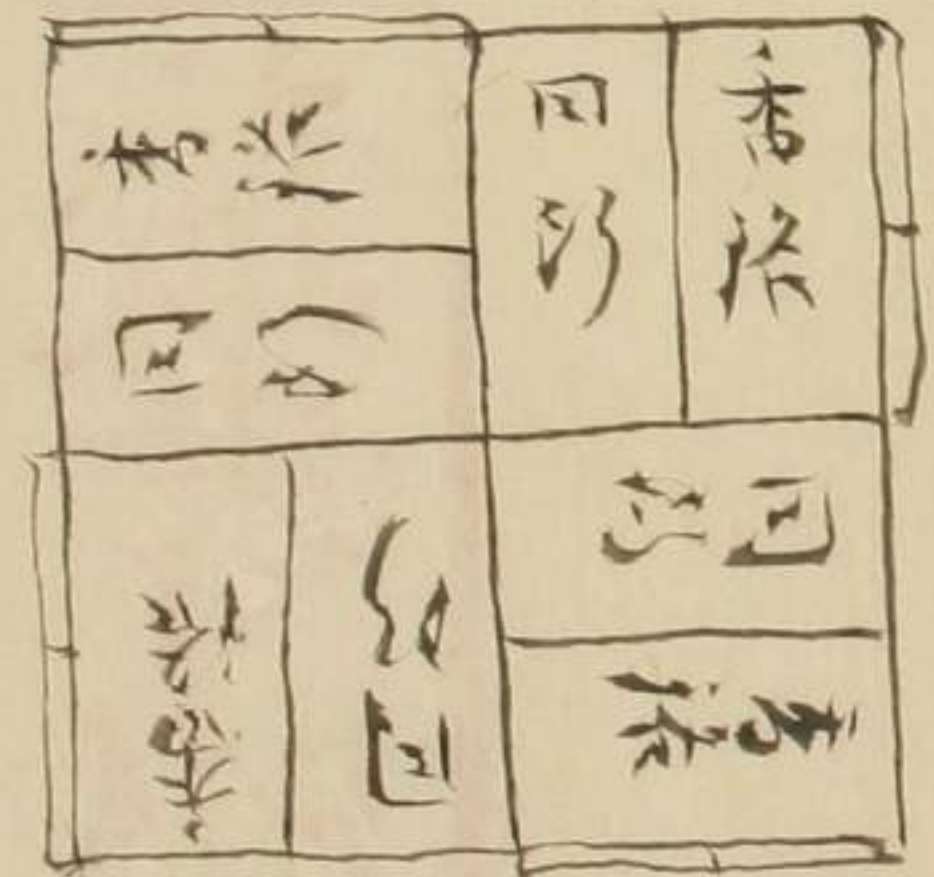
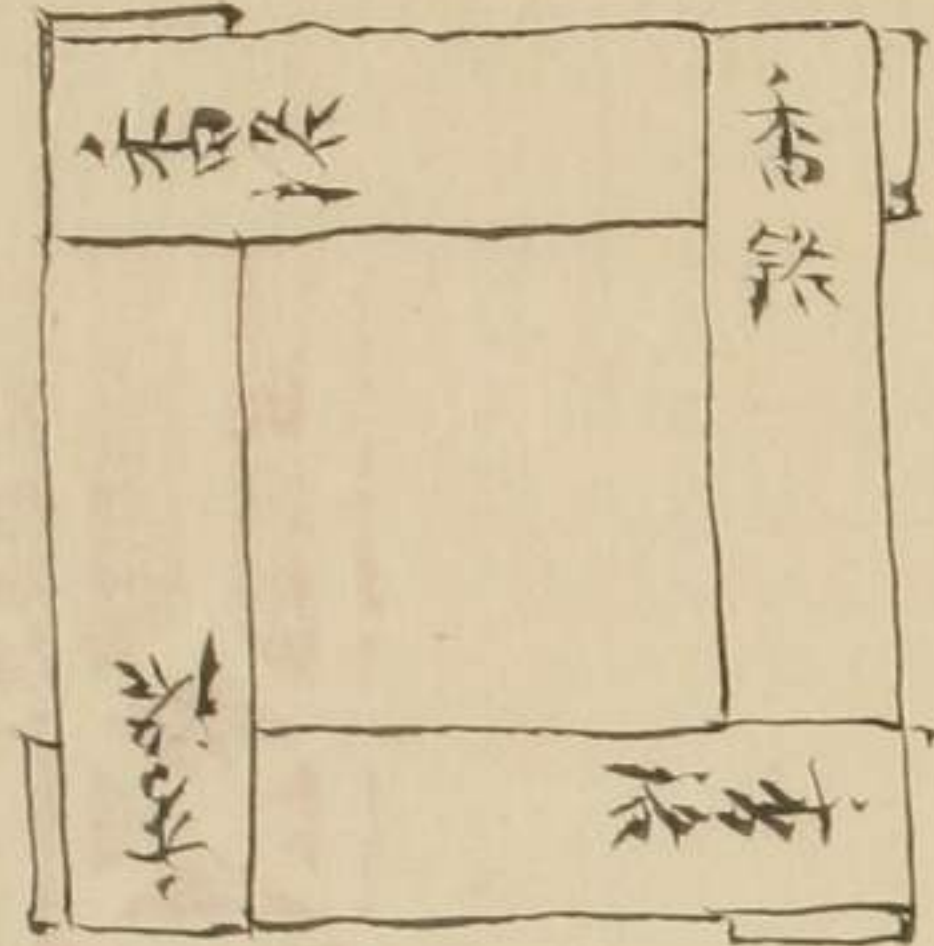
季より季へ出さるる所 若し子より五種まで  
昔から今へ 雑の字と 巧者と 雑出 雑格  
その其席の雑格と 雑出 尚季より 雑格  
その尚季より 雑格より 手柄より 雑出 雑格  
其亦 雑格より 雑格より 手柄より 雑格  
その雑格より 尚季より 雑格より 清格より 手柄より  
雑出 尚季より 雑格より 及た其亦 尚季より  
其亦 雑格より 雑格より 雑格より 亦三 其亦尚季

その 雑格附 古車附 一席 二三ヶ所 其亦 各所の  
唯一の所のより 此より 連歌の 遠く 短きものより 一席  
よ 生歌二かより 其ハ 外と 同様に 去来 大い  
連歌の格より 文字つえ ホの 半 雑格 又 雑格 在  
概して 雑格より 雑格より 雑格より 雑格より 雑格より  
その 折に 雑格と 吟聲より 雑格  
一古車附より 古詩 古歌 及 古物 借の 意より 雑格附  
その 別は 雑格より 雑格より 雑格より 雑格より 雑格より



之附之奇不右附之つと皆主と持たしむるは道  
 ろ密一巻の内二二三所より是を古車附と云  
 其傳の時の餘情實也是物附と云ふは古詩  
 古歌等も是きよのふ用朗詠又ハ三體行或ハ廣式  
 物語行習物語百人一首は歌皆人のく耳馴らぬ  
 と云ふ事あり  
 折紙去嫌ハ天象地理植物生獸降  
 物若然間五種七種つと去り算物天象ハ三種五種  
 多し包ハ季々々々示ししと云ハ皆是事あり

香袋三角香包と并るの組合せの図



二包より  
 組合せの  
 図也

如此也

此の袋は入る格とくは入る出さる散乱するて  
 一の袋は一八九枚も志和袋に入らざる  
 都合あり



